

神苑

神苑の決意

本号の内容

【主張】平成から令和へ、お代替わり 葦津珍彦の天皇論に学ぶ 悲史の帝の「かくれたる人」たらん(木川智)：1 / 【解説】石川・宮森小学校 米軍ジェット機墜落事故と賠償交渉 五〇〇ドルの攻防(高井七海)：4 / 【連載】アジア放浪記―歴史を掘り起こし日本を見る②7・タイ編③(仲村之菊)：6 / 花瑛塾四月活動報告：7 / 【記録沖縄戦】②軍民・日米それぞれの視点から(沖縄戦史研究会「棒兵隊」)：8 / お知らせ・編集後記：20

1部 1000円
(別途送料160円)

平成から令和へ、お代替わり

葦津珍彦の天皇論に学ぶ

悲史の帝の「かくれたる人」たらん

神苑の決意 主筆 木川智

【主張】 先月四月三〇日、先帝は退位礼当日賢所大前の儀や退位礼正殿の儀など退位礼に出御され、退位された。そして今日、天皇陛下が剣璽等承継の儀などに出御され、皇位を継承し即位される。即位礼は正殿の儀などこれ以降も続くが、五月一日をもって譲位・改元となり、平成から令和へつつがな

くお代替わり(御代替わり)となった。平成の三十一年間という先帝の御治世には政治・経済・社会で大きな出来事があった。また大災害も発生し、時に人心が乱れることもあったが、そのた

びに先帝は国民の身の上を思い、慈愛を施された。そうした先帝のお姿に国民も心をうたれ、先帝そして皇室を心から敬ったのである。

先帝は昨年、天皇誕生日に際して「平成が戦争のない時代として終わろうとしていることに、心から安堵しています」とのお言葉を述べられたが、このように先帝が先の大戦にいつまでも思いを致し、慰霊を続けられたことにも、国民は感銘を受けた。昭和天皇は最晩年の昭和六三年、高齢の身を押し、那須の御用邸からヘリコプターで東京へ戻られ、全国

戦没者追悼式に御臨席された。この昭和天皇のお姿にも多くの国民が感動したが、先帝はこうした昭和天皇の戦争と平和への思いを継承し、戦没者の慰霊を続け、日本国と国民統合の象徴として比類なき務めをはたされ、「地平かに天成る」という平成の御代を身を以て体現された名君であった。

葦津珍彦が見た昭和から平成へのお代替わり

戦後神道界を代表する言論人・思想家の葦津珍彦